

## 2023年度 第1回 教育課程編成委員会 議事録案

日 時：2023年7月13日（木）15：00～16：30

会 場：岩国YMCA保健看護専門学校1階会議室

参加者：村岡 恒信 様 認知症予防クラブ 会長

安永 彰子 様 岩国市医療センター医師会病院 看護部長

安田 真弓 様 岩国市健康医療部 健康推進課 健康づくり班

江見 享子 様 岩国YMCA保健看護専門学校 校長

西濱 正俊 様 岩国YMCA保健看護専門学校 事務長

藤中 優子 様 岩国YMCA保健看護専門学校 保健看護学科長

矢野 結花 様 岩国YMCA保健看護専門学校 看護学科長

### 議事内容

#### 1. 報告および審議事項

まず初めに自己紹介を行った。2023年3月に介護福祉学科が閉科となったため、学校名が変更になっている旨説明があった。

##### 1) 2022年度学生満足度調査について

詳細は別紙資料参照

##### <質疑応答>

学校：学生から毎年意見をいただいている。課題を改善しつつ、学生に説明した上で理解を促していきたい。

委員：多くの学生たちは満足しているようだ。全体が2：6：2とよく言われており今回の調査も不満を持っている約2割はだいたい表われてくる割合ではないか。

委員：授業以外での1日の学習時間について、学科別の傾向はあるか。

学校：全体で示しているものと同じ傾向にある。看護学科の学習時間は少ないと思う。保健看護学科は学年による。アンケートの時期が2月だった為、4年生は学習時間が多と思うが、1・2年生は学習時間が少ない。

委員：指導者がよく言っているが、特に領域別実習が始まる学年からは勉強をして欲しい。勉強をしないで実習に来ることで受け持ち患者への援助の前に患者が退院して時間が足りないので勉強させて欲しいと現場から要望がある。

学校：学校では実習前の事前学習等で指導をしているが、学生全員が取り組めていない現状にある。

委員：入学目的のところで資格取得のために入学が 62%となっている。看護師・保健師になりたいという気持ちに今と昔とで違いはあるか。

学校：看護学科は社会人の学生がいるので、強い気持ちを持っていると思う。18 歳年齢は学習意欲を持たせることを試行錯誤しながら行っている。

保健看護学科は 18 歳年齢がほとんどの為、本当になりたくて来たという学生が多いとは思いますが、保護者の勧めで入学したという学生も聞く。入ってきた以上は資格を取るという目標をもとに頑張っていて欲しいと伝えている。

委員：学校生活を送りながら、つらい、辞めたいなどのような相談はあるか。

学校：保健看護学科では 1・2 年生の時に辞めたいなど相談を受けることがある。次の目標がはっきりわかっており、次の計画が明確なときは保護者とも相談をして、方向転換といったケースがほとんどである。目標が決まっていない場合は、次の道を決めるまでは頑張ろうと話をしている。保護者の方に学科教員の思いも伝えて考えてもらっている。

学校：他の学校の先生と話をしても動機が薄いなど話を聞く。時代は変わってきているように感じる。

委員：20 歳前後は自分に何が向いているのかがわからない人が多いように思う。若い年代で自分の将来を決めるのが難しくなっている為、高校で進路を考える時に保護者も資格を取るよう勧めるようになっている。

## 2) 2023 年度学校運営目標について

詳細は別紙資料参照

## 3) 2023 年度学科目標について

詳細は別紙資料参照

### 【質疑応答・ご意見】

委員：チャット AI 等の技術が進歩しているが、対策はされているか。

学校：山口県の学事文書課等から先日もそれについて伝達があった。小学校・中学校が主な対象となっており、看護学校でどのように使用するか想像がつかないが、今後はそのようなことにも対応していかなければならないと考えている。

委員：AI を活用することで、パワーポイントで簡略化が可能になる、公的文書の要約もしてくれるなど、便利になる。そういった分野に強い人材の確保も必要になってくるのでは。

委員：効率化にもつながるが、考える、人と協議をする等が薄くなるのが心配。上手に活用できれば良いと思う。

学校：学生もスマホは使えるが PC が上手く使えないなどもある。

委員：臨床判断で、学校がこれだけ苦労しているが、現場でもできていない現状がある。

どのように教えていくのか。

学校：今回のカリキュラム改正で臨床判断能力を持たせるようになっている。座学で学んでいたことを学内の演習で事例を用い、シミュレーターを使用して援助をするといった内容になると思う。

委員：資格以前の考える、相手が何を思っているか、想像する等仕事になるともっと求められる。現場でもどう伝えたらよいか困ることがある。

委員：多くの保護者が生徒を手厚くサポートしてきている。考えることが少なくなっているように思う。

委員：入学以前の部分が大きいと思う。コミュニケーションの取り方も変わってきている中で、地域の方とどう関わるかというところをどう伝えたら良いか、とても難しい。

学校：学校でどこまでやれるのか、カリキュラムの内容を試行錯誤している。

委員：考えるきっかけを持てるようなトレーニングが必要だと思う。

委員：自分がどう考えてどう判断したのか、が伝えられれば良いと思う。日々のトレーニングが必要だと思う。

委員：卒業したらさらに高める人と学びを止める人と二極化になっており、学びを止める人が多いように思う。

委員：卒業生のお話を保護者に聞かせるのは効果があると思う。卒業生が歩んできた道等話を聞いてもらえたら子どもに勧めるための知恵になるかも知れない。

#### 4) カリキュラム進行状況

保健看護学科については別紙資料参照

看護学科は地域・在宅看護概論Ⅰの科目しか終わっていない。地域・在宅看護概論Ⅰ・Ⅱとあるが、Ⅰは地域と暮らしや家族の理解、Ⅱは在宅療養の制度について勉強している。1番は地域に目を向けて興味を持ってもらうことを目指している。人口構成やどのような医療、介護施設があるか、子どもの支援にどのようなものがあるか等を調べてまとめる授業を行っている。自助や互助の部分を付け加えて進めていく予定である。

#### 5) その他

次回の委員会は2023年12月頃開催予定であることをお伝えした。

その際に臨床判断について本校も考えるとともに、ご意見をいただきながら次年度のカリキュラムや授業方法に役立てたい。

以上

記録：西濱 正俊

## 2023年度 第2回 教育課程編成委員会 議事録案

日 時：2023年12月21日（木）14：50～16：05

会 場：岩国YMCA保健看護専門学校1階会議室

参加者：村岡 恒信 様 認知症予防クラブ 会長

安永 彰子 様 岩国市医療センター医師会病院 看護部長

安田 真弓 様 岩国市健康医療部 健康推進課 健康づくり班

江見 享子 様 岩国YMCA保健看護専門学校 校長

西濱 正俊 様 岩国YMCA保健看護専門学校 事務長

藤中 優子 様 岩国YMCA保健看護専門学校 保健看護学科長

矢野 結花 様 岩国YMCA保健看護専門学校 看護学科長

### 議事内容

#### 2. 報告および審議事項

##### 1) 2023年度学生状況とカリキュラム進捗状況について

詳細は別紙資料参照

保健看護学科の主な報告は下記の通り

- ・学生数は4月の時点で147名だったが、退学・休学が1名ずつ出た為、現在は145名が在籍している。
- ・卒業予定の学生は32名。内定をいただいている学生が30名。残り2名が内定をいただけていない状況。就職状況の内訳は山口県9名（内岩国市内4名）、広島県16名、その他地域は4名という状況。現在は国家試験合格に向けて学習している。
- ・新カリキュラムが始まって2年目となる。新たに今年度取り組んだ科目で領域横断という領域がある。地域・在宅看護論、成人看護学、老年看護学、小児看護学、母性看護学、精神看護学の領域全てを網羅した科目となる。これまでは周術期の看護や薬物療法の看護など、それぞれの領域で講義していたものを1つの科目にした。他の領域の教員と話をして授業を行っていくので領域間のコミュニケーションも取りやすくなっている。その反面、1科目に複数人の教員が評価をするので難しい面もあるが、将来的には1人の教員で授業が行えるようにしていきたい。

#### <質疑応答>

委員：就職で山口県9名（岩国市内4名）、広島県16名、その他地域2名とのことだったが、岩国市内の就職は例年よりも多かったのか、少なかったのか。また、広島県は多いが、病院が多いからか。

学校：岩国市内への就職は例年よりは少ない状況。広島県への就職が多いが、市内中心部への就職は少なく、広島県西部が多い。実習施設と関連があるように思う。

委員：岩国市内に就職した4名は岩国市出身者か。

学校：4名のうち2名が岩国市出身者である。

委員：広島県出身で岩国 YMCA に来て、実習先が良かったからと就職してくれた学生たちも広島から通っている職員が多い。

委員：一時期、奨学金を出して YMC A を卒業した学生が何年か勤めて返還義務がなくなっただけで近くの病院に転職ということもあった。

学校：看護系でも入学生の確保が厳しくなっている現状がある。

委員：子どもは減り、学校が増えて取り合いになっている。中学・高校で要望があれば職員の派遣も行っている。

学校：学校としてもボランティアや授業を通して地域と繋がれるようにしていきたい。

看護学科の主な報告は下記の通り

- ・1年生28名が入学。学習習慣が無く、苦慮している。2年生が18名。実習が終わり、国家試験に向けて勉強に励んでいる。
- ・就職は18名中14名が内定をいただいている。山口県への就職は4名（岩国市内は2名）で例年より少ない状況。
- ・1年生は新カリキュラムになっている。地域・在宅看護方法論では2単位増えており、概論と方法論とで1単位ずつ増えている。非常勤講師としてコミュニティナースや、まちの保健室の方を招き、実践されている方からの講義を受けている。

<質疑応答>

委員：岩国市には100ヵ所近くサロンがある。ほとんどが高齢者で、看護学生が参加すれば地域の理解が深まり、視野が広がると思う。地域の人と交わるのが良いのではないか。

委員：地域の人たちがどのような暮らしをしているのかを知って看護師になった時に、関わる患者さんがこの地域に帰っていくという看護をする勉強になると思う。

委員：コミュニティナースや、まちの保健室の活動を聞くだけで高齢者が自分らしく生活をするということが気づけるのかが気になる。高齢者の方がどのような暮らしをしているのかを見ることはできると思うが、自分らしく生きることがどういうことなのかを学べる機会があれば良いのではと思う。先ほどのサロンに参加するのは良いと思う。

委員：実際に暮らしている方々の話を聞いて、どのような暮らしが楽しいのか、どのような話をしているのかを知り、感じ取ることで、実際に患者さんとなった時に、在宅がある、帰る家があるというのを意識して看護をしていただけると良いと思う。

学校：看護師としてどうしたら良いのかという方向での講義内容だったので、実際に話を聞く、感じ取るなど発想が無かった。次年度に向けて良いヒントをいただけた。

## 2) 2023 年度学生募集の状況について

2024 年 4 月に周南公立大学が看護学部を開設する。地域に指定校や地域推薦枠を設けている。地域推薦枠に本校学生の妹が受験をしたそうだが、倍率が 20 倍と非常に高かったようである。高校訪問で教諭から話を聞くが、1 年目ということもあり、チャレンジをする高校生が増えているとのこと。広島には大学もたくさんあり、教育方針としても大学進学を勧めているため、厳しい状況である。

### < 質疑応答 >

委員：なぜ周南公立大学に人が集まるのか。

学校：公立である為、学費も本校の半分ほどで安いからではないか。本校は専門学校であり、親御さんや高校の先生からすると大学を勧める傾向があると思う。

委員：保健師・看護師両方の受験ができるのが大きな強みだと思う。大学だと人数枠が決まっており、保健師になりたくても人数枠に入ることができずに、4 年間通ったが看護師しか取れなかったという話もよく聞く。

学校：保健師になりたい学生も増えてきている。早めに学生に働きかけていきたい。

委員：保健師の仕事のイメージが分かりづらいので、実習に参加することや、オリエンテーションの中でイメージしていただけるのではと思う。

委員：実習に来ていただく際には予習をしてきていただけると助かる。保健師の仕事を理解してから実習に入っていただくと理解が深まると思う。

学校：学生に指導していきたい。

以上  
記録：西濱 正俊